

会 議 録

1 会議名

令和８年度第１回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

- ・上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案）について
- ・令和８年度牧区の主な事業について

○自主な審議（公開）

- ・あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和８年４月１５日（火）午後６時３０分から午後８時０５分まで

4 開催場所

牧区総合事務所 ３階３０１会議室

5 傍聴人の数

１人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名

- ・ 委 員：西山会長、清水副会長、飯田委員、池田委員、井上委員、河野委員、
西條委員、羽深委員、宮内委員
- ・ 担 当 課：資産活用課 竹下課長
- ・ 事 務 局：牧区総合事務所 小林所長、岩崎次長、清水市民生活・福祉Ｇ長兼教育・
文化Ｇ長、小暮地域振興班長、風間地域振興班副主幹

8 発言の内容（要旨）

【岩崎次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告

【西山会長】

・挨拶

【小林所長】

・挨拶

【西山会長】

・会議録署名委員として飯田委員を指名

報告事項 1 について、担当課から説明をお願いします。

【竹下課長】

・資料No. 1－1～1－3に基づき、報告事項 1 「上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案）について」を説明

【西山会長】

今ほどの説明で、質問等があればお願いします。

【西條委員】

質問が 3 点ある。1 点目は、前期計画で取組が遅延している施設の件数や具体例を教えてください。2 点目は、後期計画で抽出している施設の件数や具体例を教えてください。3 点目は、公共施設等適正管理推進事業について、事業期間が令和 4 年度から 8 年度まで実施される中で、令和 7 年度の事業費が 5 千億円となっている。この予算が具体的に何に使われたのか教えてください。

【竹下課長】

1 点目について、取組が遅延している施設は 3 施設ある。具体的な施設名の明言は差し控えるが、当初は民間への譲渡等が見込めたものの、相手先から受入れの了解が得られていない状況である。引き続き、相手先との調整や他の受入れ先を探しながら、取組を進めていきたい。

2 点目について、後期計画に入れる候補施設は、現時点では選定している段階であり、具体的な施設名や数は決まっていない。関係者との協議の結果を踏まえて、見通しが立ったものから計画に盛り込むことを検討したい。

3 点目について、公共施設等適正管理推進事業に関する資料を本日追加したが、まず 5 千億円という額は国の予算額である。この事業は、市町村が国の財政支援を受けて、公共施設の機能集約や長寿命化、転用を進めていくものである。

【井上委員】

資料で使われている言葉の中に「～中^{なか}」といった表現があるが、これは意味が捉えにくいので、他の言葉を使ってもらいたい。

もう1点、資料の中で「時代のニーズ」と「市民ニーズ」という言葉が出てくるが、参考資料の3ページ目の2つ目の項目で「時代のニーズ」とあるのに、別の資料には「市民ニーズ」とある。「市民ニーズ」と「時代のニーズ」は同じものか、違うのかを知りたい。

【竹下課長】

大きな枠では「市民ニーズ」ということで考えている。時代を踏まえた市民の皆様のニーズが、時代のニーズという意味なので、その意味からすると、市民のニーズや必要性を十分に考慮しながら進めていくということでご理解いただければと思う。

【井上委員】

この「時代のニーズ」という言葉の文脈からは、市民ニーズが十分に含まれていないように感じる。市民ニーズは様々な人の要求や要望を含むものだと思うが、「時代のニーズ」はどちらかというと、施設の老朽化や、数が多くて経費的に厳しいといった課題が強調されている印象である。時代のニーズと市民ニーズとをもっと関係づける必要があるのではないかなと思う。

受益者負担というのは、建物があってその使用に対して受益者負担を考えるとということとは抽象的には分かるが、公共施設について受益者負担だけを考えると、利用する人だけが料金を払えばよいという話になりがちだが、そうではない。受益者負担と建物にかかる経費は、バランスや幅を全体的に考えていく必要があると思う。

【竹下課長】

「ニーズ」や「受益者負担」については、今後、検討する中で、いただいたご意見を十分踏まえたい。

ここで、井上委員から事前質問をいただいていることについて説明したい。まず一つ目の質問、資料1-1の5ページのA地域、B地域、C地域は現在の地域自治区を指すのか、それともより小さな区域、例えば町内会等の区域を指すのかについて、A地域、B地域、C地域は生活拠点の場合もあれば地域拠点やコミュニティ圏を指す場合もあり、A地域が必ず地域自治区であるとか町内であるとするものではない。各エリアや地域の

実情を踏まえ、施設の多寡を見ながらバランスをとる区域の範囲を考えていくことをイメージしたものである。

2つ目の質問の資料1－2の3ページにあるグラフの見方について、グラフの横軸は昭和44年から令和4年までの年数を記載しており、これは施設を建設した年を示している。また、オレンジ色の折れ線グラフは、右端に記載している累計延べ床面積を表している。

3つ目の質問について、資料1－3の2ページ目において、文面では「公費投入額が約4.7億円と大幅に減少しているが、これは大規模改修等にかかる有利な起債等の創設等が要因と考えられる」とはどのようなことかというご質問であるが、かつては施設の大規模改修は、市の一般財源、つまり市がほぼ100%負担で行っていたが近年は国の支援をかなり活用できる状況となっていることを表したものである。例えば、公共施設等適正管理推進事業債のように充当率90%・地方交付税措置率50%とする支援策の場合、改修等の総事業費のうち、約45%が国のお金で賄われるなど、そういった有利な財源を十分活用した結果として、市の公費投入額が減少しているのではないかと分析している。

最後に、資料1－3の3ページ以降の表の取組方向欄において、「別の計画等で取り組むと記載しているが、別の計画等とは何か」というご質問をいただいた。本日配付した資料の一番最後の3ページ目が、施設ごとの方向性等を個別に示している各種計画の一覧表になっている。適正配置計画以外の例を挙げると、汚泥リサイクルパークの長寿命化計画、公営住宅の長寿命化計画、保育園の適正配置等に係る計画、学校施設長寿命化計画というように、施設の単体やカテゴリーごとに作成し、その中で取組の方向性を明確にしている。

【井上委員】

先ほどのA・B・Cの区域の話について、広がりや範囲は画一的なものではないということを説明していただいたが、例えば公民館はA・B・C地域それぞれに設置しているが、より広い範囲で捉えた場合、公民館は1つになってしまうかもしれないという話なのか。

【竹下課長】

そのエリアをどれくらいの範囲とするかは、地域の実情をしっかりと見た上で検討させ

ていきたい。

【井上委員】

例えば、これが広く大浦安と牧の範囲になった場合、そこに総合事務所が移行するということになるかもしれないということか。

【竹下課長】

総合事務所は別の扱いになると思われる。地図上の面で接しているが、間に大きな山があつて地域の往来が難しいような場合もあるので、その一定のエリアとして考えられる最大幅を、まずは現在の集約先単位で検討している。

適正配置の区域は、地域の実情をしっかりと確認し、皆さんと意見交換しながら検討させていただきたい。

【清水副会長】

人口減少、利用者数の減、それから老朽化といった課題、旧市町村ごとに施設が重複しているものをできる限り効率的にするという考え方は分かったが、中学校のクラブ活動の地域移行については十分な配慮をお願いしたい。

また、以前移住者との意見交換会を行ったところ、移住してこられた方は、地域の歴史や仏閣などに非常に興味があるとのことであつたので、それらを踏まえた施設整備の配慮をお願いしたい。

さらに、以前は農業体験などで施設を活用していたが、利用者の減少もあつて今は休止している。外部の人に牧区への関心を持たせたいということになると、それを十分に活用した施策が必要ではないかと思うので、ただ単に利用者が少ないといって休廃止するというのではなく、政策的に誘導するような観点から施設利用を考えてもらいたい。

【竹下課長】

中学校のクラブ活動は地域クラブ化へ移行しており、国からも地域クラブ化について十分配慮するよう指導がある。現在でも、部活動から独立した地域クラブが公の施設を使う場合は、減免対応を行っている。

また、歴史がある建物を上越市は多く所有しており、観光資源として活用するなら、見せ方を工夫する必要があると思う。

最後に、公の施設は、地域振興であれ観光振興であれ、一定の目的を持って建設した。その目的が十分に果たされないまま利用者数が減っている状況であるが、そうなったか

ら終了という話ではなく、利活用の方法について十分検討していかなければならないと考えている。行政だけでなく民間、また、行政と民間が連携する中で、利用促進を図っていくなど、そういった取組も今後は十分進めていきたい。

【飯田委員】

各施設は旧牧村の時からあるものもあるが、高齢化と人口減少でだんだん使う人がいなくなっている。このままでは歴史ある場所がどんどん無くなってしまうので、あるものを再利用するのかなど、十分に検討していただきたい。

【竹下課長】

承知した。

【西山会長】

他に質問がないようなので、以上で報告事項1を終了する。

（資産活用課退席）

続いて、報告事項2について、事務局から説明をお願いします。

【小暮班長】

- ・資料No.2に基づき、報告事項2「令和8年度牧区の主な事業について」を説明

【西山会長】

今ほどの説明で、質問等があればお願いします。

【池田委員】

地域おこし協力隊について、募集から着任までの流れについて教えて欲しい。

【小暮班長】

まず地域の方から地域おこし協力隊導入の要望をいただき、地域の課題解決に向けた将来ビジョンを定めるとともにそれを実現するために協力隊に担ってほしいミッションを地域で話し合っていていただく。その上で必要な予算を計上して、募集を行うこととなっている。地域おこし協力隊は単なる労働力ではなく、地域の課題解決と一緒に取り組んでいく人材と位置付けている。

【飯田委員】

資料に道路除雪の記載があるが、除雪の担当者を板倉区総合事務所任せにするのではなく、牧区総合事務所にも配置するなど、体制を整えていただきたい。

【小林所長】

板倉区総合事務所としっかり連携して適切に対応したい。

【西山会長】

他に質問がないようなので、以上で報告事項2を終了する。

続いて、自主的な審議について、事務局から説明をお願いする。

【小暮班長】

- ・資料 No. 3-1～3-2に基づき、自主的な審議「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい『牧づくり』について」を説明

【西山会長】

当日、出席いただいた委員の皆さんから順番に、感想や意見などを発言していただきたい。

それではまず私から、移住者の表情は明るく、「移住してきて良かった」という印象を受けた。ただ、住む上でやはり雪が一番の問題として挙げられるようであった。

【清水副会長】

移住者は、牧区が持つ豊かな自然や歴史・文化への関心が高いと感じた。それらを勉強する講座を単発ではなく継続的に開催したり、対外的に発信を行うことも大事ではないかと思う。

【飯田委員】

移住者との意見交換会には参加できなかったもので、3月13日に行われた藤山所長の講演会の感想を述べたい。講演会を通じて、何かをやろうと思っても、今の高齢化と人口減少が本当に厳しい状況になっていることに、皆さんが初めて気づいたと思う。それでも今回、多くの参加者が集まり、一緒に頑張ろうとする仲間がいることに気づけた良い機会だった。

【池田委員】

意見交換会で一番聞いてみたかったのは、移住のきっかけであったが、実際に話を聞くと、移住する前から少なからず牧と縁があり、結果として牧を選んでいただいたという印象を受けた。まずは牧区を知ってもらい、関わりを持ってもらう施策を進めていくとよいのではないかと感じた。

【井上委員】

藤山所長の話をもとに牧の中で生かしていく時に、できることとできないこと、向いている

ところと向いていないところがあると思うので、それを私たちの頭で考えておかないといけないと思った。

【河野委員】

（移住者との意見交換会）当日は参加できなかったが、私自身も移住者なので、自分が牧に対して何ができるのかということをいつも考え、自分なりに牧の良さを発信するなど、自分ができていることをしていると思っている。牧の暮らしには大変なこともあるが、楽しいこともあるので、引き続き発信していきたい。

【西條委員】

藤山所長の講演会の参加者アンケートの結果から、「牧づくり」の考え方について、ほとんどの人が「必要だ」と思ったということは、それだけ参加者に大きな衝撃を与えたのだらうと思った。また、牧区の地域おこし協力隊の定住率が高いのは、牧区総合事務所がしっかりと対応してくれているからだと思っている。牧区のことを宣伝してくれる地域おこし協力隊をはじめ、移住者を大事にしてみんなで盛り上げていければと思う。

【羽深委員】

私たちにとって当たり前の、水がおいしいとか山菜がおいしいといったことが、移住者の方には新鮮に映るということで、改めてそれらが牧区の魅力だと感じた。移住を希望する人と牧区との関わりを持たせ、その体験が移住につながればいいと思う。ただ、上越の中でも牧がどこか分からない方もいるので、そういったこともPRしていく必要があると感じた。

藤山所長の講演会では、今手を打っていかないと大変なことになるという危機感を改めて感じ、来週の持続可能な牧づくり地区別検討会でさらに突っ込んだ意見交換ができればいいと思う。

【宮内委員】

移住者との意見交換会は参加できなかったが、やはり自分たちが気づいていないことが多いということを、資料を見て強く感じた。これらをどのようにPRしていけばよいかを改めて考えたいと思う。牧区にたくさんの移住者が来てくれるのは本当に嬉しいことだが、そもそも地元の子どもたちが残ってくれないと、もう何年か後に人口が劇的に減ってしまい、本当に危機的な状況だと、藤山所長の講演を聞いて私も思った。来週の持続可能な牧づくり地区別検討会で地元として何ができるかを改めて考えたいと思った。

【西山会長】

次回の会議では、今回出された意見を事務局にまとめてもらった上で、今後の進め方について話し合うこととする。以上で自主的な審議を終了する。

続いて、その他連絡事項について、事務局から説明をお願いする。

【小暮班長】

次回の地域協議会について、今年度からは第3水曜日を定例とし、次回は5月20日となるが、委員から「春の農繁期で都合がつきにくい」との申し出があったので、一週遅らせて5月27日（水）18時30分からでお願いしたい。

【西山会長】

次回の日程について意見等があればお願いする。

（意見等なし）

意見等はないようなので、次回は5月27日で決定とする。

本日予定していた案件は全て終了した。清水副会長に閉会の挨拶をお願いする。

【清水副会長】

・挨拶後、会議の閉会を宣言

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-533-5141（内線144）

E-mail：maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください